

名古屋市瑞穂公園陸上競技場整備等事業

Mizuho
LOOP

LifeSports - Our Own Park



1. スポーツをもっと自由に楽しくみんなのものに



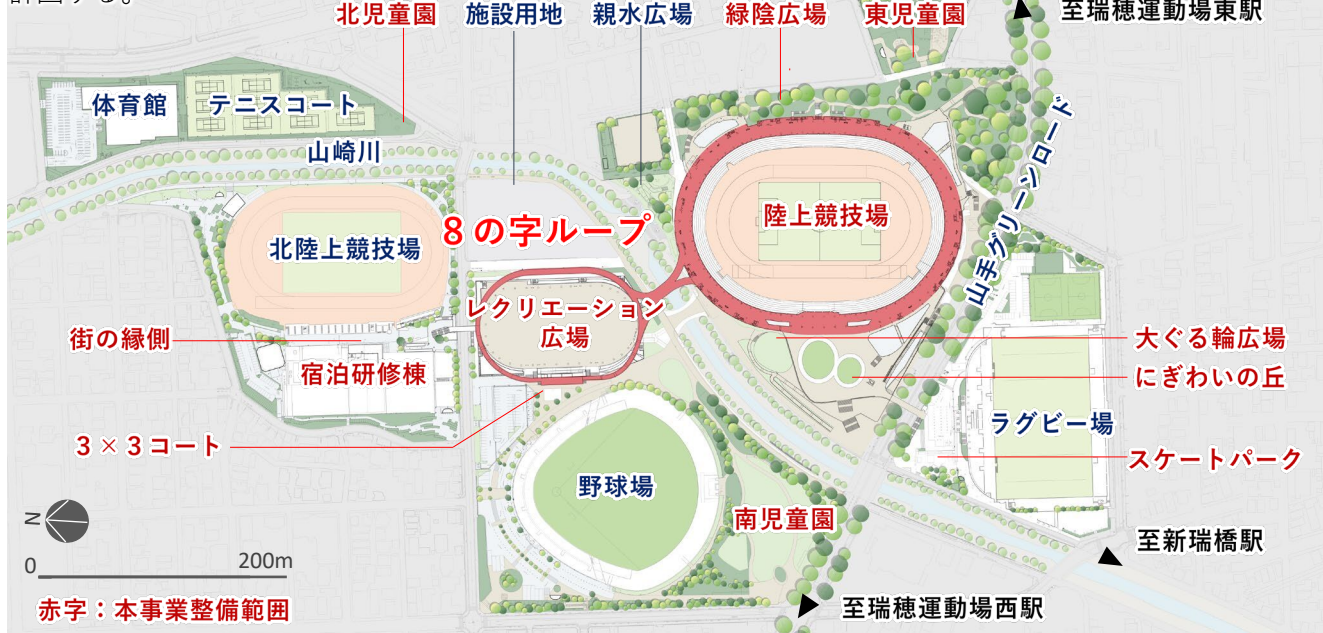
2026年のアジア・アジアパラ競技大会のメイン会場となる瑞穂公園陸上競技場の建替計画及び周辺の公園整備計画。瑞穂公園の多様な価値を再編集し、スポーツをもっと自由に、楽しくみんなのものにする。「LifeSports - Our Own Park」をコンセプトに、「観る」「競う」から「遊ぶ」「リフレッシュ」までスポーツのスタイルを多彩に広げ、日常のとなりで、こころとからだに活力や安らぎを生み出す。



2. 多様な場を創出する公園全体の整備



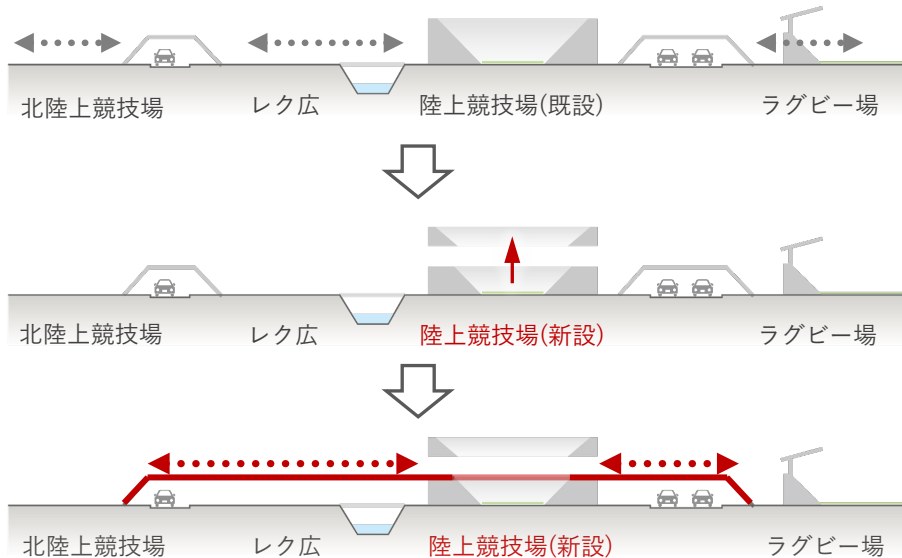
公園の各所に多様なアクティビティを促進する仕掛けを創出することでスポーツのみならず幅広い利用者が楽しめる公園づくりを目指す。樹木健全度調査等をもとに緑を適正に整備し、健全で豊かな緑化空間を計画する。



3. 公園に潜在する価値をつなぐ「8の字ループ」



以前の陸上競技場は公園の中心でコンクリートの大きな壁として立ちはだかり、自然や歴史・文化においても優れた公園の資源・魅力を分断していた。新たな競技場は上下に分割してコンコースを公園と連続させ、コンコースを中心に「8の字ループ」として上空でつなぐことで、公園の資源・魅力をつなぎ利用者にとっての公園の価値を高める場となる。

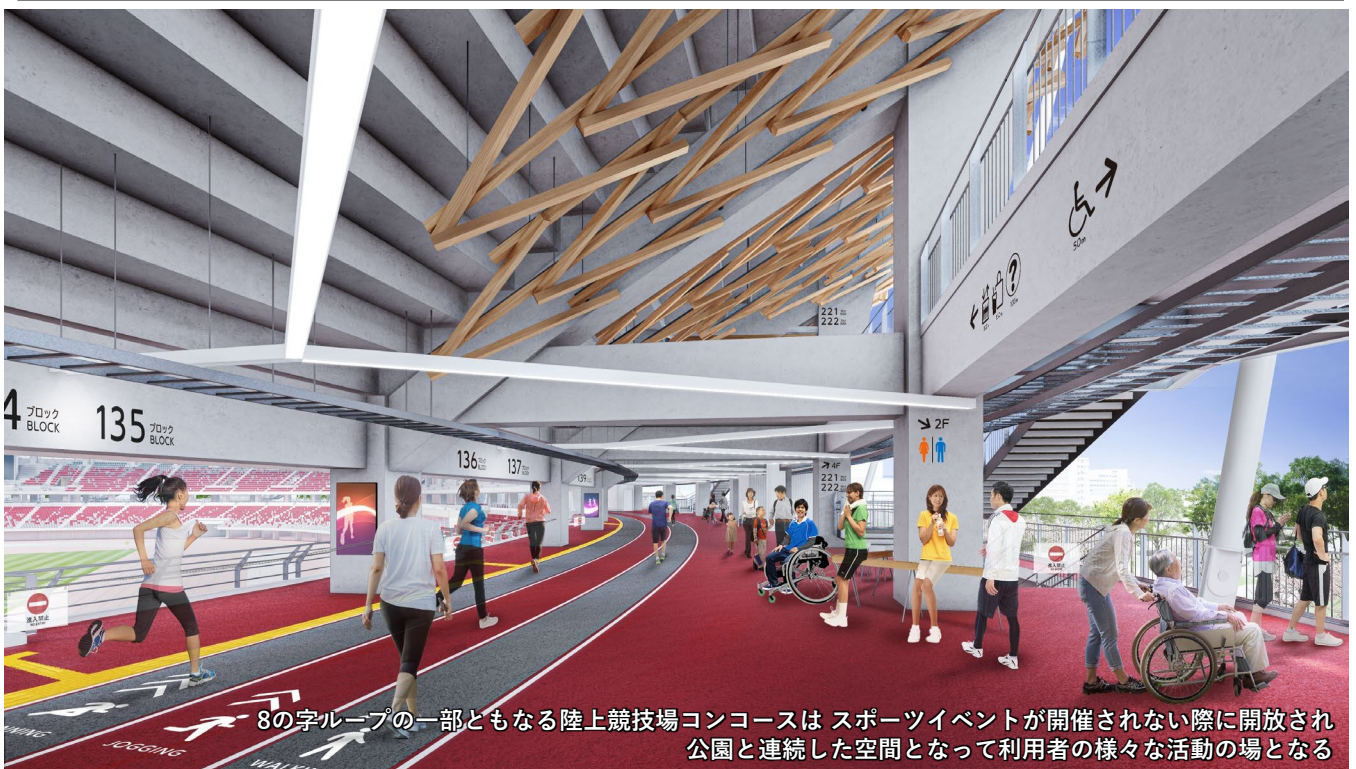


公園の資源・魅力が
競技場や道路によって
分断されていた

公園の中心で
大きな壁となっていた競技場を
上下に分割する

競技場のコンコースを中心に
「8の字ループ」で
公園をつなぐ

4. 公園と一体の場となるコンコース



8の字ループの一部ともなる陸上競技場コンコースは スポーツイベントが開催されない際に開放され
公園と連続した空間となって利用者の様々な活動の場となる

5. 公園の風景となる「空」と「森」と「大地」



市民の日常に寄り添う陸上競技場として、公園の風景となる姿を目指した。

- 「空」 雲のような膜屋根がやわらかに形を変えながら風景に馴染む膜屋根
- 「森」 豊かな木々の風景に溶け込む愛知県産のスギによる木格子
- 「大地」 海岸沿いの段丘が連なる縄文時代の風景を想起させるデッキ



6. 競技場と公園をつなぐ「木々のシンボル」



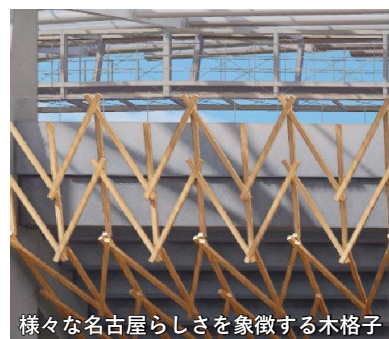
豊かな緑をつくる木々を抽象化したシンプルな形態を公園全体のデザインコードとして、8の字ループの架構・木格子の意匠・サイン計画などに展開することで、競技場と公園をシームレスに表現する。



瑞穂の緑をつくる木々



抽象化したシンボル



様々な名古屋らしさを象徴する木格子



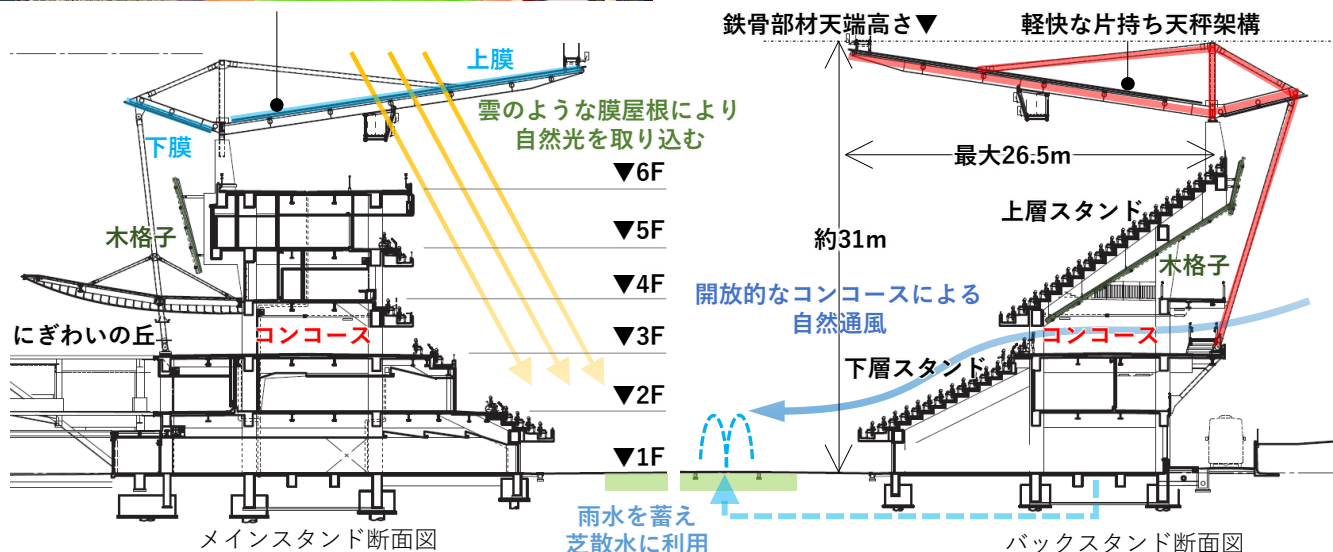
木々のシンボルは8の字ループのミニマルな架構にも展開し 人々の活動の拠り所となる

7. 豊かな自然を活かした快適な観戦環境



「熱狂の渦」を表現する渦巻き形の屋根架構

開放的な3階コンコースにより内側の観客席に風を送り込む。小梁を渦巻き形にすることでブレースを兼用した架構の膜屋根は、全ての観客席を覆いながら自然光をやわらかく取り込む。豊かな自然を最大限に活かす技術により、快適な観戦環境を生み出す。



8. 多様な競技・大会に対応できる競技エリア



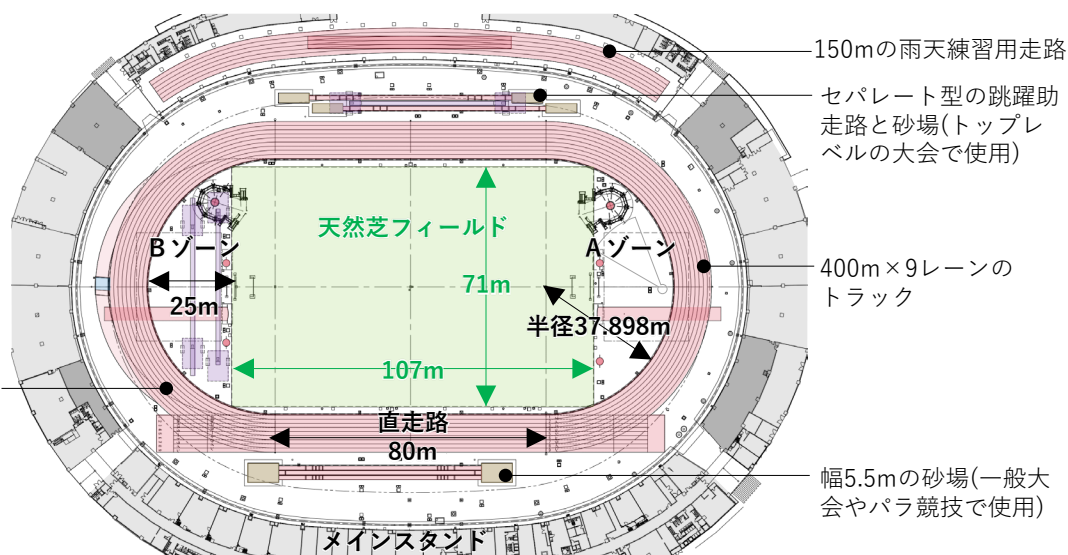
陸上競技だけではなく、サッカーやラグビー、アメフトの試合にも対応できる多目的陸上競技場として、各競技団体の意見を集約してトラックやフィールドを計画した。

陸上競技においては、パラ競技を考慮した砂場の幅を確保したり、バックだけではなくメイン側にも跳躍助走路を3レーン配置したりと、アジア競技大会だけではなく、パラ競技大会や市内の一般的な大会でも競技や運営がしやすいレイアウトとした。

陸上はJAAFの第一種公認・WAのCLASS2が取得可能な仕様。
サッカーはJリーグ公式戦の開催が可能な仕様。



自動データ計測システムをトラックや助走路に導入し、タイムや歩幅等の自動計測が可能。



9. この地のはじまりに触れる縄文時代の史跡展示



敷地内にある史跡「大曲輪(おおぐるわ)貝塚」をより身近に感じられるよう、芝生の「大ぐる輪広場」として整備する。広場の付近には展示室も整備し、大曲輪貝塚で発掘された「イヌを抱いた人骨」や土器や石器等の出土品を展示するほか、この地の縄文時代の風景や生活の様子をシアターで演出する。



10. アクティビティの場を巡る新しい都市公園



各児童園に新しい遊具や休憩施設を整備するほか、これまで公園内の単なる動線となっていた場にも来園者が気軽に利用できる3×3バスケットボールコートやスケートパークを整備する。これにより様々なアクティビティの場が循環し、来園者が隅々まで巡りたくなる新しい都市公園となる。



11. 新しい可変型の拠り所「PLOT」



PLOTは、日常の居場所づくりから非日常の舞台づくりまで、多様なアクティビティの拠り所になる新しい可変型公園拠点施設。利用者自身がフレキシブルかつ容易に可変でき、時代やニーズの変化に伴って更新も可能で、地域とともに成長していく。



イメージ

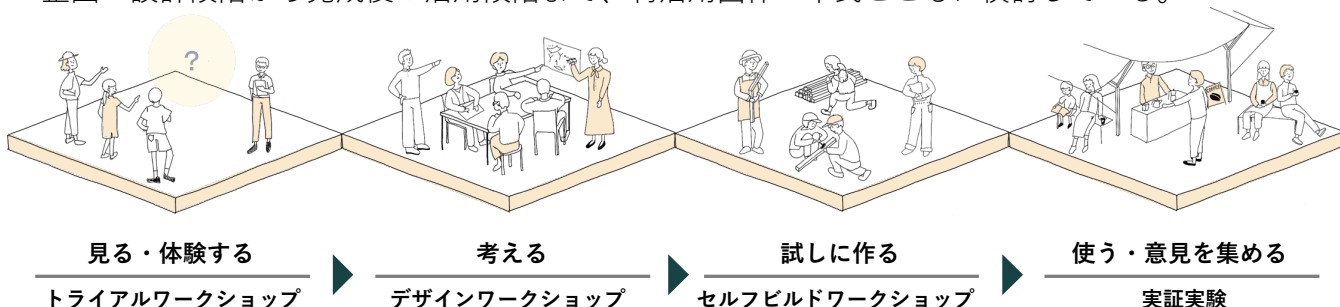
Park - lot

公園における
アクティビティの最小単位

PLOT

- ①点を打つ、描画する、置く
- ②企画・構想、映画や物語の筋書きや因果関係

企画・設計段階から完成後の活用段階まで、利活用団体・市民とともに検討している。



12. 多様な想いをかたちに



当事者のニーズを具体的に把握するため、障がい者団体や子育て・高齢者団体に対してヒアリングを実施した。動線や観客席、トイレ、サイン等に関する意見を聞き、障がい者も健常者と一緒に通行できるバリアフリールートや、様々な位置・高さから観戦できる車いす席を各所に計画した。公園ワークショップでは、各児童園の近隣住民から自分たちの公園をどのようにしたいか意見をを集め、園路の配置や遊具の選定に反映した。

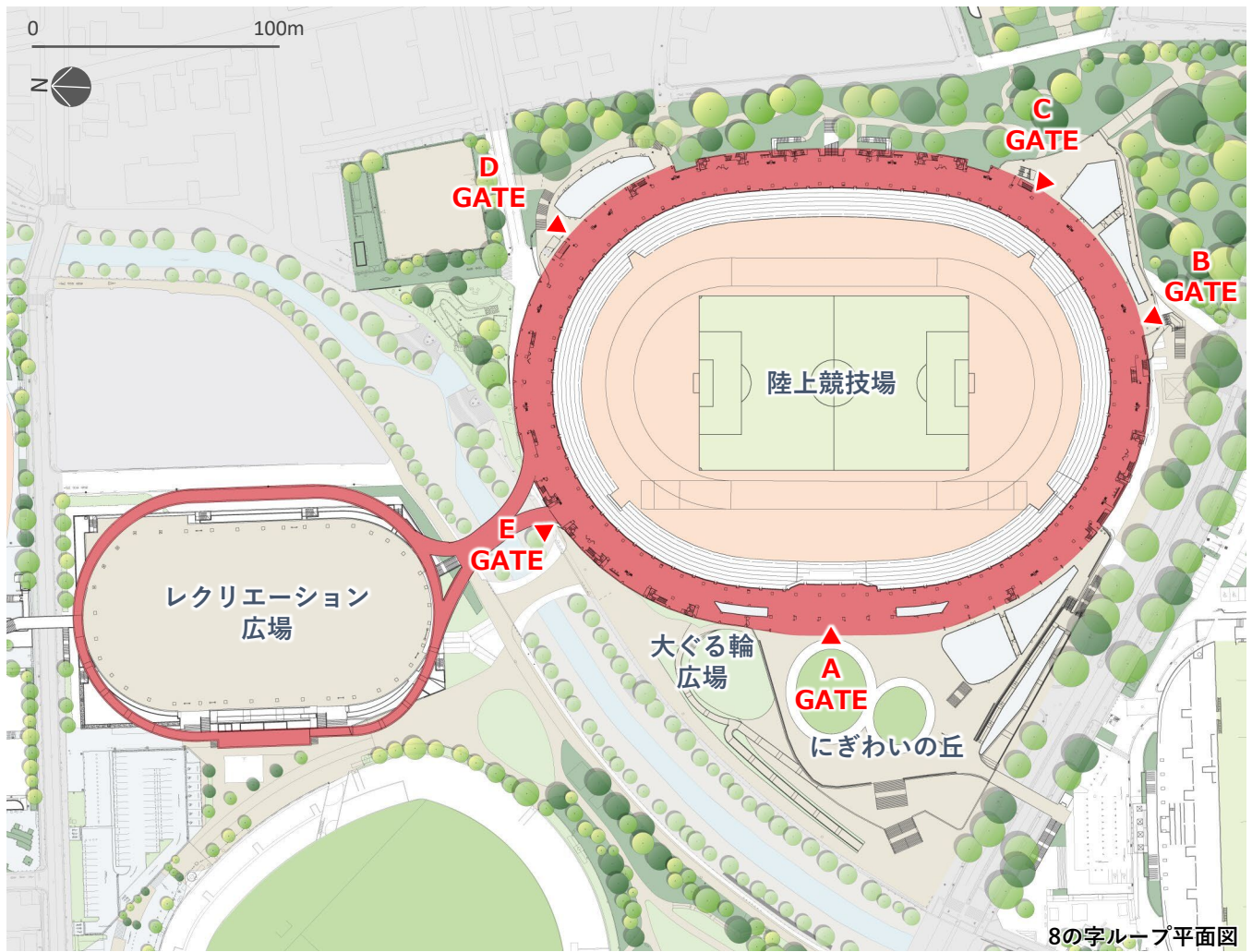


地上から3階までスロープでアクセス可能なバリアフリールート

©株式会社瑞穂LOOP-P F I ※画像はイメージです



大人も子どもも自分たちの公園について意見を出し合う



【名古屋市瑞穂公園陸上競技場】

所在地	名古屋市瑞穂区萩山町3丁目他	設計期間	2021年7月～2023年3月
主な用途	観覧場	施工期間	2023年4月～2026年3月
用途地域	第1種中高層住居専用地域	設計	日本設計 竹中工務店 プレック研究所 設計共同体
	第2種住居地域	施工	株式会社 竹中工務店
	スポーツ・レクリエーション地区	監理	日本設計 プレック研究所 工事監理共同体
敷地面積	約140,000㎡（競技場街区全体）	建築主	株式会社 瑞穂LOOP-PFI
建築面積	約 28,600㎡	PFI事業	名古屋市スポーツ市民局
延床面積	約 61,500㎡	発注者	
構造階数	RC造およびS造 6階		
観客席	約30,000席		

